

令和7年度 東京都小学校体育研究会夏季合同研究会

器械運動系領域部会

「器械運動に向き合うすべての先生のパートナーに。」

東京都小学校体育研究会 研究主題

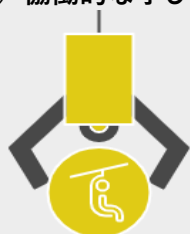
「自ら学び続ける力を、仲間と共に身に付けていく体育学習」
～運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことを通して～

目指す児童像

体育の見方・考え方を働かせ、自ら学習課題を見だし、他者と協働しながら学びを深めていく子供

研究の重点と手立ての工夫

- (1) 子供による自己調整及び教師による学習環境のデザイン
- (2) 学びのサイクルを回せていない子供（飽和・停滞等）への教師のかかわり方
- (3) 協働的な学びの促進



場の設定

「安心・安全な場」 「技カードのアップデート」
「成長を実感できる場」 「補助の行い方動画」

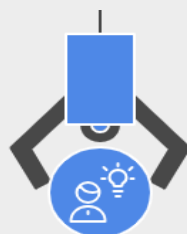


学習資料



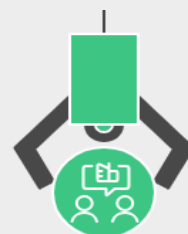
掲示物

「見方・考え方」
×
学びのサイクル」



学習過程

「できそう！やってみ
たい！が生まれる」



教師のかかわり

「教師が教えることと
子供が学ぶことの
バランス」

東京都小学校体育研究会
器械運動系領域部会 HP



東京都小学校体育研究会
器械運動系領域部会 LINE グループ

【実証授業】

授業日 令和7年10月16日（木）
場 所 葛飾区立東金町小学校
単 元 鉄棒運動
授業者 第4学年 貝原 明紘 主任教諭



(3) 研究主題を実現するための手立ての工夫

○場の設定

動きに慣れていない子供に対して恐怖心や不安感を取り除くことを目的とした「安心・安全に取り組める場の工夫」と、子供が自らの学習成果を実感できるようにすることを目的とした「成長を実感できる場の工夫」を組み込むようにした。

安心・安全に取り組める場の工夫

ポートボール台



マット



成長を実感できる場の工夫

ラインマーカー



ゴムひも



○学習資料

技カードのアップデート

練習方法をイラストから写真に差し替え、イメージしやすいものに変更するとともに、より子供の課題に合わせた練習方法に修正した。

てんこうまえ お 転向前下り

両足で鉄棒をさみ、うでで体を支えた姿勢から、前に出した足と同じ側の手を逆手に持ちかえ、反対側の手をはなしながら、後ろの足を前に出し、逆手に持ちかえた手は鉄棒をにぎったまま横向きに着地する。

技のポイント

- 逆手にした手の方に、体を少しおす。
- 後ろの足を上げながら、順手をはなす。
- 両足をそろえて着地する。

逆手側を支えてもらいながら、体を少しおす。

片足が地面に着いている状態から、順手をはなす。

足が地面に着いている状態から、後ろ足を前に出してそろえる。

てんこうまえ お 転向前下り

両足で鉄棒をさみ、うでで体を支えた姿勢から、前に出した足と同じ側の手を逆手に持ちかえ、反対側の手をはなしながら、後ろの足を前に出し、逆手に持ちかえた手は鉄棒をにぎったまま横向きに着地する。

練習方法

- 逆手にした手の方に、体を少しおす。
- 後ろの足を上げながら、順手をはなす。
- 両足をそろえて着地する。

※練習ついでにこの練習からのアドバイスを書こう！

てんこうまえ お 転向前下りの練習方法・場

逆手にした手の方に、体を少しおす。

両足をそろえて着地する。

低い鉄棒や台にまたがって、逆手にぎっている方に体を預けながら、鉄棒にかけていない足を前に出す。

低い鉄棒を離れて、片足が地面に着いている状態から、後ろ足を前に出してそろえる。

後ろの足を上げながら、順手をはなす。

低い鉄棒や台にまたがって、片足が地面に着いている状態から、順手をはなす。

教師による補助の行い方動画

転向前下り



両膝掛け振動下り



子供による補助の行い方動画

膝掛け振り

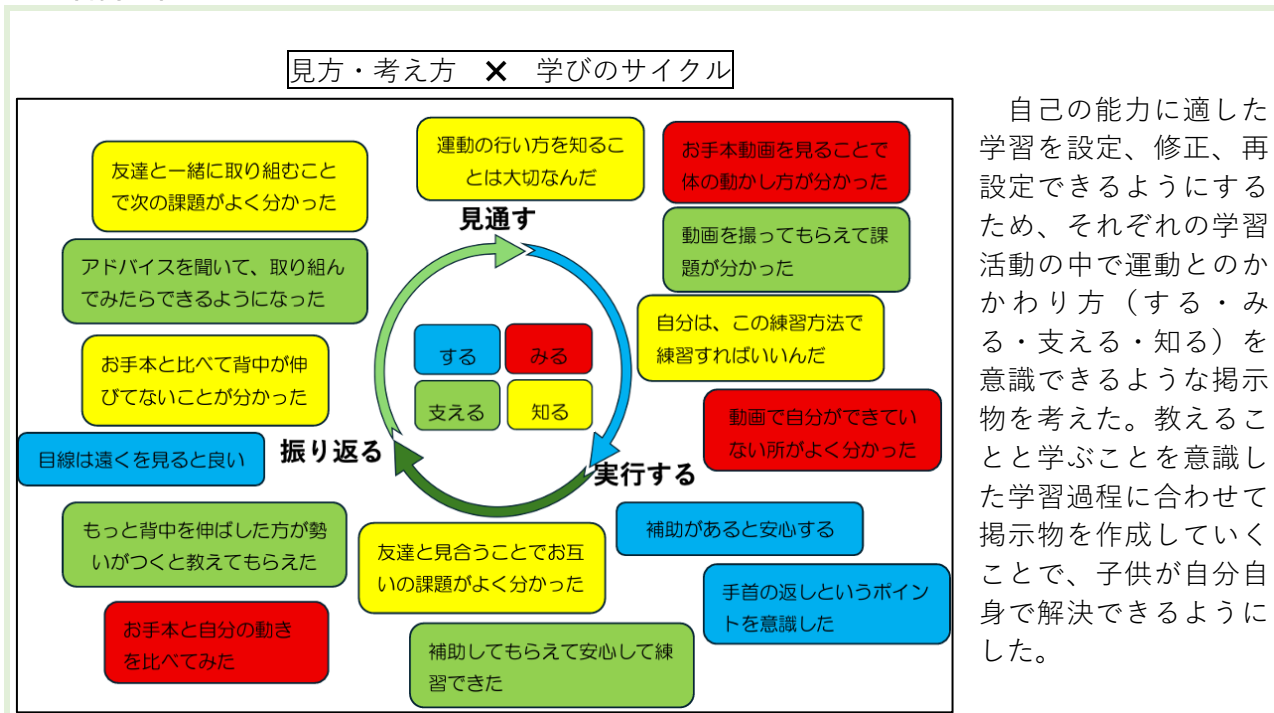


かかえ込み前回り



教師が行う補助と子供同士で行える補助を分けて示した。

○学習揭示物



○教師のかかわり

「教えること」と「学ぶこと」

本部会では、鉄棒運動における教師が「教えること」と子供が「学ぶこと」の関係を整理し、指導や学習の見通しをもてるようにまとめた。

	1	2	3	4	5	6	7
教えること	- 鉄棒学習の進め方 - 場の準備や片付けの仕方 - 鉄棒学習のきまり - 主運動につながる運動の行い方とポイント - 安全な行い方	- 主運動につながる運動の行い方とポイント - 技の行い方とポイント（下り技） - 学習資料の使い方 - 運動の見合い方	- 主運動につながる運動の行い方とポイント - 技の行い方とポイント（回転技） - 運動の見合い方 - 友達との学び合いの仕方（心理面） - 補助の仕方	- 補助の仕方 - 友達との学び合いの仕方（技能面） - 場や練習方法を変えて取り組むこと - 技のできばえ - 自己の課題に合った練習を行うこと			
学ぶこと	- 鉄棒運動の進め方 - 安全な準備の仕方 - 主運動につながる運動の行い方 - 自己の能力に適した主運動の取り組み方 - 安全な片付けの仕方	- 技の行い方やポイント、運動の見合い方、安全な行い方 - 自己の能力に適した運動の選び方 - 友達の様子を見方 - 自己の課題の把握の仕方	- 技の行い方やポイント、運動の見合い方 - 自己の能力に適した運動の選び方 - 友達運動の補助の仕方 - 自己の課題の把握の仕方	- 自己の能力に適した運動の選び方 - 友達の様子を見方 - 友達運動の補助の仕方 - 自己の課題の把握の仕方 - 自己の課題に合った練習方法の選び方			

2 学習指導案

(1) 単元の目標

知識及び技能	鉄棒運動の行い方を知るとともに、支持系の基本的な技をすることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	①鉄棒運動の行い方について言ったり書いたりしている。 ②自己の能力に適した支持系の基本的な技をすることができる。
思考・判断・表現	①自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための活動を選んでいる。 ②課題の解決のために考えたことを友達に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	①運動に進んで取り組もうとしている。 ②順番や決まりを守り、だれとでも仲良く励まし合おうとしている。 ③場の準備や片づけを、友達と一緒にしようとしている。 ④友達の考えを認めようとしている。 ⑤場や器械・器具の安全、試技の開始前の安全を確かめている。

(3) 第4学年の学習過程と評価の重点 (全7時間)

時	1	2	3	4	5	6	7
段階	学習の見通しをもつ。	易しい運動や基本的な技の行い方を知り、今もっている力で運動に取り組む。		課題の解決のための活動を工夫して、技に挑戦することを楽しむ。			
学習活動	○学習の進め方、安全についてのきまりを確認する。 ○場の準備をする。 ○準備運動、主運動につながる運動をする。 ○3年生までに学習した運動に取り組む。	○準備運動をする。 ○主運動につながる運動をする。 ○様々な支持の姿勢から安全に下りる動きや技に取り組む。 【転向前下り】 ・台乗り転向前下り	○振動したり、回ったりする動きや技に取り組む。(選択) 【かかえ込み前回り】 ・補助かかえ込み前回り 【膝掛け振り上がり】 ・補助膝掛け振り	○できるようになりたい技に取り組む。(自己の能力に適した運動に挑戦する。) ・学習課題を確認する。 ・グループ学習を通して、友達の学習成果や自己の見付けたコツを伝え合う。			
知	①						②
思					①	②	
主	⑤	③	②	①	④		

(4) 一単位時間の流れ(本時案)【第6時】

① ねらい

知識及び技能	自己の能力に適した支持系の基本的な技をできるようにする。
思考力、判断力、表現力等	課題の解決のために考えたことを友達に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	友達の考えを認めることができるようにする。

※本時は、主として【思考・判断・表現】を評価する。

② 展開

児童の学習活動	○教師のかかわり ◎配慮が必要な子供への支援 ☆本時における「自ら学び続けている子供の姿」 □評価(方法)
(1) 集合・整列・挨拶をする。 (2) 学習の流れを確認する。 (3) 場の準備をする。 (4) 準備運動・主運動につながる運動をする。	○子供の健康確認と服装確認をする。 ○掲示物を用いて、前時までの学習と本時の流れを確認する。 ○安全に気を付けて準備をするように言葉かけをする。 ○手首等、よく使う部位を意識するように言葉かけをする。 ○身に付けたい感覚を伝え、主運動につなげていけるようにする。 ◎正しく行えるように言葉かけをしたり、補助をしたりする。
(5) できるようになりたい技に取り組む。 ・自己の能力に適した運動を選んで行う。 ・友達の動きを見て、考えを伝えたり、補助したりする。 ・自己の課題を知る。 ・自己の課題に合った練習に取り組む。 ※教師は同じ技、もしくは同じ系統の技に挑戦する子供で、3名程度のグループを編成する。	☆自己の能力に適した運動や技の行い方を知っている。 ☆本時の自己の学習活動を確認し、見通しをもつことで意欲を高めている。 ☆自己の課題を見付け、それに応じた練習方法を選んでいる。 ○自己の能力に適した運動と課題解決のために選んだ場にずれがないかを確認し、設定した学習課題が適切でない子供には、資料の動きと自己の動きを比べることを提案し、学習課題の修正を促す。 ☆学習が順調に進んでいないことに気づき学習活動を修正している。 ○技のポイントができていないか友達と見合うように促す。 ☆友達の動きを見て、考えを伝えたり、友達の運動を補助したりしている。 ◎課題解決に向けたグループ学習が停滞しているグループに意図的にかかわり、試技の様子や学習資料を見比べ、練習方法や場が合っているかを伝え合うことを確認する。 □課題の解決のために考えたことを友達に伝えている。(観察、学習ノート) ○使った部位に痛みがないか確認するように言葉かけをする。 ○安全に気を付けて片付けをするように言葉かけをする。 ○自己の学習活動に対して振り返るように言葉かけをする。
(6) 整理運動をする。 (7) 場の片付けをする。 (8) 学習の振り返りをする。	☆自己の学習を振り返り、上手くいったことや、上手くいかなかったことの対策を考え次時の学習への意欲を高めている。
(9) 集合・整列・挨拶をする。	○子供の健康確認をする。

(5) 実証授業で明らかにしたいこと

- ① 子供主体の学習を支える学習環境のデザインについて
- ② 子供の自己調整力を高める教師のかかわりについて
- ③ 質の高い課題解決に向けた協働的な学びについて

○ 検証方法について

ア 事前・事後の意識調査 イ 毎時アンケート ウ 学習ノートの記述内容 エ 技能の実態調査

○ 検証内容

ア 事前・事後の意識調査

質問項目には、「鉄棒運動が好きか」「友達と学び合うことのよさ」や、「自分に合っためあてを立てることの大切さ」「体育の学習で大切にしていること」、「鉄棒運動をもっとやりたいと思ったきっかけ」などを設定し、事前・事後の数値の変容を見取り、検証していく。

イ 毎時アンケート

毎時間の授業後、児童が1時間の授業について感じている、「自身の成果やつまずき」や「課題解決的な学習への取り組み方」、「他者との協働」、「愛好的態度」等の項目について、形成的授業評価のアンケートを取る。アンケート項目の数値を見取り、実証授業に向けた手立てが有効であったかを検証していく。

ウ 学習シートの記述内容

単元を通して1枚で、子供が毎時間の自己評価を記入できる学習シートを使用し、毎時間の記述の変容を見取っていく。ここでは、体育の見方・考え方をどのように働かせているのか、他者と共に学びを深める様子などの変容について検証していく。

エ 技能の実態調査

転向前下り、かかえ込み前回り、膝掛け振り上がりの3つの技（簡易化した動き、発展技を含める）について、技能の実態調査を行う。子供には、自分ができると思う動きや技を選択して行わせ、調査を行う。事前と事後での技能の変容を比較し、手立てが有効であったかどうかを検証していく。

(6) 資料

① 新技カード	② 補助の行い方動画	③ オリエンテーション漫画
④の資料を今年度アップデート中	教師による補助と子供による補助を分けて作成中	学習の見通しをもてるようにするための資料
		
④ 現在の技カード	⑤ 技動画	⑥ 実技研修動画
技の行い方、ポイント、練習方法を載せた資料	技の行い方、ポイントを載せた動画資料	鉄棒運動の実技研修の様子を撮影した動画資料
		

東京都小学校体育研究会 器械運動系領域部会



ホームページは左のQRコード

ホームページでは、

これまでの研究について

ICT資料のDLリンク

技カードなどの過去の学習資料

部会の予定などが閲覧可能です。ぜひ、ご活用ください。



器械運動系領域部会 出張依頼 7回～第11回

だより6

だより5



検索



ホーム

動画

東京都小学校体育器械運動部

チャンネル

YOUTUBEは、右のQRコード



マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動の資料動画
実技研修の動画、オリエンテーション動画など多数掲載中



「器械運動に向き合うすべての先生のパートナーに。」